

寺報みょうとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺
(安芸教区 志和組)
発行責任 寺報編集委員会
東広島市八本松町飯田六〇二
電話〇八二四二八〇一四四



報恩講のお参りありがとうございました



個人情報保護のため、画像を加工しています



報恩講は浄土真宗で最も大切にしている行事です。親鸞さまのご命日(新暦一月十六日)法要の「おたんや(逮夜)」を年内に取り越してお勤めすることから「お取り越し」ともいい、各寺や各家でお参りします。私たち浄土真宗の門徒は「親鸞さまによる仏さまの教えをいただき

く仲間」ですから、親鸞さまによるお諭しを大切にしなければなりません。普段のお説教では、親鸞さまのお言葉を通して仏さまの教えに親しみますが、報恩講ではさらに親鸞さまのご生涯を偲びつつそのお言葉の味わいを深めます。

十一月二十四日(前日)準備には四十人もお集まりいただき、お掃除やお飾りのお手伝いをしてくださいました。翌二十五日、九時からの朝席はこども園児たちの報恩講も兼ねて行いました。園児たちがこども園に帰ってからはお説教、この度のご講師は世羅町甲山の正満寺から島津恵航師でした。あらためて私たちのいたく浄土真宗の、親鸞さまの教えを再確認させていただきました。

感染症拡大防止に配慮して恒例のお斎(仏事の会食の)を皆さんで準備していただくことはできませんが、参拝の皆さんに精進弁当を用意いたしました。晴天だったので本堂や境内などで召し上がっていただき、午後席までの時間をお過ごしくださいました。

午後二時からの参りは隣寺のご住職も加わって、『宗祖讃仰作法 音楽法要』でお参りをしました。

たくさんお参りいただきありがとうございましたこと、お礼申し上げます。感染症拡大防止に配慮しながらの行事に苦勞しつつも、多くの方のご協力によりこの度も無事お勤めすることができました。

一語法話

最近の話題から二つ、話してみようと思います。

私のヘウレカ

いろいろな場面で「わかったぞ」と感じられたことがあり、このように皆さまのご経験を「ヘウレカ(そうか!)」と題して掲載しています。仏教や浄土真宗に関することだけでなく構いません。皆様方からの投稿をお待ちします。今回は仏教員の玉田義幸さんに寄稿していただきました。

浄土真宗クイズ

私たちは分かっているつもりで解っていないことがたくさんあると思います。私たちは浄土真宗門徒ですがその浄土真宗がどういった教えであるか、一緒に確認したいのでクイズにしてみました。お経本などのほかに

① 新興宗教に関する報道から新興宗教にかかわる話題が多かったように思います。疑問を持つことを認めず不審に思うことを悪として、ただ一心に信仰することを求める宗教が多く語られていたようです。テレビなどでこれらの話題を見聞きしながら、家族が苦しんでいることに目を向けない信仰があり得るのだろうか、立ち止まってその教えに疑問を持つてみることはなかったのだろうか、などと思っ

てしまいます。親鸞さまは信仰における疑問についてどのようにお考えだったのでしょうか。主著である『教行信証』のあとがきに、このようなお言葉があります。

「もしこの書を見聞せん者は、信順を因となし、疑謗を縁となし、信樂を願力に顯し、妙業を安養に彰さん」

つまり「この教行信証を読む人の中にはいろいろな思いを抱く人もおられるでしょう。どうか信する心を因・タネとし、疑つ心を縁・きつかけとして、弥陀の願いに目覚め、教えのよろこびを深めていくのではないかとおっしゃるのです。

親鸞さまが「この書を見聞せん者」と呼びかけておられるのは鎌倉時代当時の人のみに向けられたものではなく、これから先の何百年、何千年にわたって、仏縁ある人に読まれることを思つて書かれたものに違いありません。令和の世にあって親鸞さまの真意を知りたいと、教行信証をひも解く私たちに向かつて「この書を見聞する者よ」と呼びかけておられるのです。

親鸞さまも「これで間違いないだろうか」と悩みつづき、「これで大丈夫間違いない」と一歩一歩確かめながらの歩みであつたに違いありません。そうした経験がなければ、こううたお言葉で呼びかけくださっているのです。

私たちが疑つたぐらいでひっくり返つてしまうようなちう

教義 阿弥陀如来の

によって ⑦ をめぐまれ、念仏申す人生を歩み、この世の ⑧ が尽きるとき ⑨ に生まれて仏となり、⑩ の世に還つて人々を教化する。(次頁に答えを掲載)

ほけな教えではありません。存分に疑つてこの教えが間違いないことを確かめ、より一層深く、南無阿弥陀仏のお心を聞かせていただきましよう。

② 大河『鎌倉殿の』からお葬式などで拝読される御文章『白骨の章』、五百年あまり前の蓮如上人がお書きくださったお手紙ですが、

そこにはさらに二百五十年前の後鳥羽上皇のお言葉が関係するのだとうです。後鳥羽上皇は比叡山や興福寺などの申し立てにより、法然上人門下を死罪や流罪とし念仏信仰を弾圧した「承元の法難」(一二〇七)の宣旨を指示されたお方です。法然さまは死罪を免れたものの土佐へ、親鸞さま

(次頁へ続く)

行事予定

新型コロナウイルス感染リスク軽減を目的に法座回数を当面減らすこととしています。ご注意ください。

十二月二十五日(日) 午後二時から一時間
年末お掃除

大晦日 午後十一時半から
除夜会(じよやえ)

元旦 午前十時より一時間半
修正会(しゅうしようえ)

一月十日(火) 午前九時、午後一時

御正忌法要(おたんや)

講師 八本松町篠本派布教使
岡本法治師

三月十三日(月) 午前九時、午後一時
春彼岸会(はるびがんえ)

講師 呉市安浦町内海 信楽寺
広幡康祐師

（前頁からの続き）

も越後へご流罪となります。念仏の教えは世を乱す誤った教えであるとしてこのような処断がなされたわけですが、親鸞さまは、この宣旨は権力を傘に道理を無視して私怨を晴らすとしたものであると批判されています。

この度の大河ドラマでは承元の法難は描かれませんでした。この時代は貴族から武士の世となっていく転換の時です。さらに「承元の乱」（一二二一）では後鳥羽上皇は鎌倉幕府に敗れ隠岐の島に流罪、朝廷の力

は一層弱まり坂東武者の勢力が西国にも及ぶことになりました。

念仏弾圧の処断をした後鳥羽上皇ですが、隠岐へ流罪になられてからは法然門下で親鸞さまの兄弟子であった聖覚法印の教えを受け、お念仏の教えをよろこばれるようになります。そして一二三九年にお亡くなりになられるまでに『無常講式』を著されます。

「…三界無常なり。古よりまだ萬歳の人身あることいふことを聞かず、一生過

ぎやすし。今に在て誰か百年の形體を保たん。實に、我はさき人やさき、今日も知らず明日とも知らず。おくれ先だつ人、本の滴、末の露よりも繁し。…（略）：一切の有爲の法は夢幻の泡の影の如し。露の如く電の如し、かくの如きの觀をなすべし。

南無阿彌陀佛契ても、なお契るべきは菩薩聖衆の友、憑みて、なお憑むべきは弥陀本誓の助なり」

『白骨の章』の中ほどに

「…といえり。」とあるのは、蓮如上人以前の激動の時代を苦悩の中で生きられた後鳥羽上皇のお言葉を引用してのものであることが感慨深く思われます。

治天の君として権力の中心におられたお方であっても、またたとえ念仏を非難し中傷したお方であったとしても、苦しみ悩みの中で救いを求めるときお念仏はたしかにその人に届いてくださる、これはいつの世にも通じるまことなのだあらためて教えられる思いがいたします。

合同墓・墓地案内

有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。縁ある多くの方にご利用いただきたいと思ひます。



妙徳寺ホームページ

<http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/>

更新し内容充実するにしています。みようとくチャンネルもご覧ください。

妙徳寺LINE

ご登録いただくと定期的に行事などを直接ご案内いたします。



クイズの答え▽①浄土真宗▽②親鸞聖人▽③浄土真宗▽④本願寺（派）▽⑤阿弥陀如来▽⑥本願力▽⑦信心▽⑧縁▽⑨浄土▽⑩迷い

『藝州賀茂郡飯田村 獨歩行』竹本省三

其の十三「飯の春」

▼陰曆正月元旦…陽光に目覚め「ふるさとの春」は暦の上に立つけれども、節句の頃までは春色は浅い。

▼春二月…立春（二月四日）の後、約十五日、節は雨水（二月十九日）に入つて菜花が咲き、杏花も開き、李花が綻ぶ頃となつて花信の風も漸く和らぐ。

▼春三月…啓蟄（三月六日）に至つて一候桃花、二候棗棠（やまぶき）、三候薔薇、春分（三月二十一日）に及んで一候海棠、三候木蘭と、次々に種々の花木が繚乱を競つに至つて春は日々酣に、香しい花の息

吹が東西の空を籠めて清水の流れも霞に沈み、深堂山・清滝山の麓には蜻蛉が湧き立ち、大山も靡く。

▼春四月…溟濛たる春雨の日が続いて清明（四月五日）の節が過ぎ、桐花が紫に匂い、そこはかとなく広がる隴畝には麦が青々と風に靡き、雲雀が空に、御溝には柳絮が繽紛として雪のように舞う頃になると、時は穀雨（四月二十日）の節に入つて春は漸く充ち、照る日の影も思ひなしに僅かに輝きを増して空を紺青に染める。土橋（※）の袂に柳の糸を撫でて薫風が爽やか吹き渡ると、牡丹の花が古里を占断して大者の如くに咲き誇り、村中の童、家を虚うして只管に花の跡を追つて日を暮す。かくて棟

の花が甘く淀んだ懐かしい香りを宵闇に漂わす頃に、至つて、村は若葉に浸り、咽ぶような新緑の色が鮮やかに郷を覆い、空に槐樹（えんじゅ）や榆の傍には樹立の蔭も日に濃やかに、爽やかに、疲れを癒す田舎の農夫が、将又、肌触り新たな軽衫（モンペ、カルサンとも云う）に梢々汗を滲ませた早乙女が、この辺りに暫くの憩いを求むる乎。

▼夏五月…三五参差（三々五々）として隠見するようにな立夏（五月六日）となる。ここに「飯田の春」は尽きてゆく、「四季の詩」を奏で惜別の賦を吟じて、小満（五月二十一日）の頃は子燕が啄み、早苗の水面輝く。

【つづく二十四節季】芒種（六月八日）、夏至（六月二十一日）、小暑（七月七日）、大暑（七月二十三日）、立秋（八月八日）、処暑（八月二十三日）、白露（九月八日）、秋分（九月二十三日）、寒露（十月八日）、霜降（十月二十四日）、立冬（十一月八日）、小雪（十二月二日）、大雪（十二月十二日）、冬至（十二月二十二日）、小寒（一月六日）、大寒（一月二十日）

斯くして時は遷り、俗塵にまみれ、白髪染まる也、誰か知らむ。

古代東洋史で知られる稀有な学者石田幹之助氏。漢文の「凄みと格調」に慄かされる。浅学菲才の身では警咳に接することさえ控へ



※石田幹之助

明治二十三年干

らるる亦、嚆矢を射る稀少なる文人。精読し、模倣してみることが肝要と師の教諭に依り創作せる。闕（宮殿）の脇門（※）の階間から小者の如く中を覗き込む賤民が、茲に謹んで吟ず「ふるさとの春」。

葉市生、東京大学文学部史学科卒、昭和四十九年没、享年八十四歳、専攻東洋史。主著『欧米に於ける支那研究』創元社、『南海関する支那史料』生活社、『長安の春』平凡社。

※1 県道（八本松）造賀線が深堂川を跨ぐ橋。昔は丸太の上に土を被せていたので「土橋」と云った。※2 平安京は五位以上でなければ入門できない。また昇殿は参議以上であった。

志和組テレホン法話「みのりの電話」

082- 433 -4989

1月 1日～	光源寺	堀 靖史
1月 11日～	善正寺	武田 昭峰
1月 21日～	報専坊	松島 純以
2月 1日～	志和東	石川 了真
2月 11日～	長松寺	笠岡 淳一
2月 21日～	照榮寺	井口 英隆
3月 1日～	八本松南	玉田 義幸
3月 11日～	西蓮寺	西浦 憲雄
3月 21日～	天龍寺	天野 英昭

志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。

「写経の会」

1月 27日（金） 2月 24日（金） 3月 24日（金）
それぞれ午後2時より
申し込みは 代表_西本さん(428-2466)、または妙徳寺へ

「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」

1月 28日（土） 2月 11日（土） 3月 11日（土）
それぞれ午後2時より
申し込みは 代表_廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へ

「妙徳寺仏教壮年会例会」（原則毎月第2土曜日）

1月 28日（土） 午後6時より 定例会
2月 11日（土） 午後6時より 定例会
3月 11日（土） 午後6時より 寺報編集会議

「書道教室」

ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載しています。妙徳寺LINEでも随時お知らせいたします。（毎月3回程度の金曜日 午後2時半～午後5時の間）

※金谷雷聲先生(奮門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。申込は金谷先生の方0823-82-9565または妙徳寺へご連絡ください。

「おみのりサロン」開催予定日

1月 26日（木） 2月 10日（金）
3月 8日（水） 午後2時より1時間半
（住職が本堂に待機、相談をお受けします）

